

第1学年 音楽科学習指導案

日 時 平成25年12月10日(火)
場 所 出雲市立浜山中学校 音楽室
授業者 教諭 岡 陽子

- 1 題材名 クリスマスの様子をイメージした音楽をつくろう
～音素材やリズムを生かして～

2 題材の目標

クリスマス을 イメージしたリズムや、ボディパーカッションの音色に関心を持ち、音色の違いを実際に鳴らすことによって知覚し、それらが生み出される特質や雰囲気を感じ取る活動を通して、自己のイメージと音楽を形づくっている要素をかかわらせながら、リズムを創作し、反復やテクスチュアを工夫しながら音を音楽へと構成していく能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

音楽科第1学年で求められる「音楽活動の楽しさ」とは、音楽の表現や鑑賞の活動に取り組み、イメージや感情や音楽によって喚起されるなどの感情である。例えば、生徒が自分なりのイメージや表現意図をもって音楽で表現したり、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とをかかわらせて味わって聴いたりすることによって、より深まった音楽活動の楽しさを体験できるようにすることが大切である。

本題材は、ボディパーカッションで表現できる音色の特徴を生かして、クリスマスのイメージを音色やリズムとかかわらせ、構成(反復)やテクスチュアを工夫しながら音楽をつくることをねらいとしている。この題材においては、ボディパーカッションを「音素材」として使う。ボディパーカッションは、一番身近な音素材であり、演奏法や体の部位によって、明るい音、はじく音、重く響く音など、様々な音色が表現できる。また、一人一人がもつ共通の音素材であり、表現意図を話し合うグループ活動の中で、試行錯誤し、音を鳴らしながら進めていく活動に有効であると思われる。そして、「表現したいイメージ」をクリスマスとし、音色やリズムとかかわらせ、グループで反復させ、重ねることで、音楽をつくりやすくなると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒について

本学級は男子19名、女子13名の計32名で構成された学級である。音楽の授業では、歌唱活動などの音楽活動に意欲的に取り組む生徒が多い。また、グループ学習でも、男女問わず教え合って共に高まろうとする姿が見られる。入学以来、歌唱と器楽(アルトリコーダー:以下ARと示す)の表現活動の基礎・基本となる学習を中心に進めてきた。しかし、歌唱のときは、譜読をせず歌詞を見ながら耳から音を覚えたり、ARを演奏するときは、階名や指番号を楽譜に記入したり、友達にリズムを教えてもらう等、読譜に抵抗をもっている生徒が多い。本題材は、中学校に入学してから初めての創作活動となる。そこで、記譜の仕方を、ワークシートの表に○をする表し方や、指導者のつくった作品を提示することで、少しでも創作活動に対する抵抗感がなくなるように配慮し、学習を進めていきたい。また、生徒が自己のクリスマスのイメージを膨らませながらつくったリズムや音色を、構成(反復)やテクスチュアを組み合わせながら、まとまりのある音楽づくりへつなげられるよう、グループ活動を取り入れていきたい。

(3) 指導にあたって

初めての創作活動であることに配慮し、生徒の発想を引き出す「音楽的な約束事」の設定の中で、リズムを選択したり、具体的な例を示したりすることで、創作への意欲付けとなるようにしたい。また、リズムをつくりやすくするため、クリスマスのイメージを『何が・どんなふうに・どうした』など、言葉で記入してからリズムづくりに取り組ませたい。『クリスマスの様子をイメージした』と条件設定することで、クリスマスの楽しさや、クリスマスが近づいてくる様子などのイメージとかかわらせながら、音の長短やシンコペーションを取り入れてリズムをつくりやすくさせたい。グループで

の反復や、重ね方が効率よく進むよう、色別の小節線が入った付箋紙を使いながらグループ活動に取り組ませる。指導者のつくった作品の例示では、色分けした掲示物を作成し、反復や重ね方の効果が分かりやすくしたい。そして、表現したいイメージをボディパーカッションの音素材を生かすことで、音色やリズムとかかわらせながら構成（反復）やテクスチュアを工夫することによって生み出される音楽の面白さを味わわせたい。さらに、作品の発表を通して、創作の意図や様々な工夫した点に触れたり、お互いに意見を交換したりする中で、自分の音楽表現を深めさせたい。これらの学習を通して、音楽をつくる楽しさや、表現する喜びを味わうとともに、これからの音楽表現に主体的にかかわっていかうとする能力を育てたい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

A表現：創作	
	ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。
○	イ 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。

(2) 取り扱う主な〔共通事項〕

ア	音色	やわらかい音、明るい音、はじく音、重く響く音
	リズム	旋律のリズム（長短、シンコペーション）
	速度	/
	旋律	/
	テクスチュア	音や旋律のリズムの重ね方（追いかけるように重ねる、同時に重ねる）
	強弱	/
	形式	/
	構成	リズムの反復、リズムの組み合わせ
イ	用語や記号	/

5 教材

- ・ワークシート
- ・指導者のつくった作品
- ・朝の風に（安西 薫作詞／長谷部匡俊作曲）

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱				
A・器楽				
A・創作	○	○	○	
B・鑑賞				

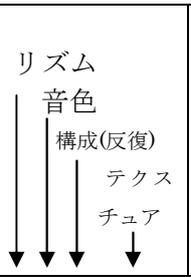
(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
①ボディパーカッションの音色の違いに関心をもち、生徒の発想を引き出す「音楽的な約束事」の設定の条件の中で、リズムをつくる活動に意欲的に取り組もうとしている。	①クリスマスのイメージをかかわらせたボディパーカッションの音色やリズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫している。 ②反復やテクスチュアを知覚し、	①表現したいイメージと音色やリズム、構成（反復）やテクスチュアを生かした音楽表現をするために必要な技能（効果的な反復や重ね方、記譜の仕方）を身に付けて音楽をつくっている。

	それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫している。	
--	--------------------------------------------	--

7 指導と評価計画 (全4時間)

時	ねらい	○学習内容 ・学習活動	[共通事項]	評価	評価方法
1	ボディパーカッションの音色の違いに関心を持ち、生徒の発想を引き出す「音楽的な約束事」の設定の条件の中で、リズムをつくる活動に意欲的に取り組むことができるようにする。	○「音楽的な約束事」の設定条件の中で、主体的にリズムをつくる。 ○手拍子とボディパーカッションを取り入れて演奏した時の音色の違いを感受する。 ・グループで2小節のリズム創作し、手拍子で発表する。 ・発表した作品に音色の違いが出せるよう、ボディパーカッションを取り入れて再度発表し、音色の比較をする。 ・音色によって、どんな違いや効果があったか話し合う。 ○学習の振り返りをする。	リズム ↓ 音色 ↓	ア①	発言の内容 活動の様子の観察 演奏の聴取 ワークシートの記述
2	クリスマスのイメージをリズムで表し、ボディパーカッションの音色を試しながら、音楽表現を工夫することができるようにする。	○クリスマスのイメージをリズムで表し、音色を試しながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫する。 ・指導者のつくった作品（春をイメージし、音色やリズムの特徴があるもの）を例示し、全体で演奏する。 ・自己のクリスマスのイメージを音色やリズムとかかわらせながら考えて、ワークシートや付箋紙に記入する。 ・グループごとに、自分の作品を伝え合う。 ○学習の振り返りをする。	リズム ↓ 音色 ↓	イ①	活動の様子の観察 ワークシートの記述
3 (本時)	反復やテクスチャを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫することができるようにする。	○反復や重ね方を取り入れ、クリスマスのイメージとかかわらせ、思いや意図をもって音楽表現を工夫する。 ・反復、重ね方をいくつか例示し（指導者のつくった作品、朝の風に）、どんな効果があるのかを話し合う。 ・グループに分かれて、構成（反復）、テクスチャを工夫して創作をする。 ・イメージとかかわらせ、前後のつながりを考えながら反復、重ね方を取り入れて、音楽表現を工夫しているグループの発表を聞くことで、音楽づくりの参考にする。 ○学習の振り返りをする。	構成（反復） ↓ テクスチャ ↓	イ②	発言の内容 活動の様子の観察 ワークシートの記述
4	音色やリズムの組み合わせ方、構成（反復）や記譜の仕方を身に付けて、音楽をつくることができるようにする。	○音色やリズムの組み合わせ方、構成（反復）や記譜の仕方を身に付けて、音楽をつくる。 ・仕上げた作品にどのようなクリスマスの様子になったのかタイトルを付ける。 ・グループごとに創作した作品の工夫点など	リズム ↓ 音色 ↓ 構成(反復) ↓ テクスチャ ↓	ウ①	発言の内容 活動の様子の観察 演奏の聴取 ワークシート

<p>できるようにする。</p>	<p>を発表してから演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、構成（反復）、テクスチャで表す創作活動を振り返り、どのようなクリスマスの音楽に感じたのか、ワークシートに記入し、発表する。 ○学習の振り返りをする。 		
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	--

8 本時の学習（本時 3 / 4）

(1) ねらい

反復やテクスチャを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫することができるようにする。【音楽表現の創意工夫】

(2) 展開

過程	・学習活動 ◇予想される生徒の反応	・教師の支援	評価規準と方法
<p>導入 展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時につくった作品の中で、音色やリズムを工夫した点を紹介・確認する。 ・本時のめあてと活動の流れ（学習内容と学習活動）を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>反復・重ね方を工夫して、クリスマスの様子をイメージした音楽をつくろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・反復、重ね方をいくつか例示し、どんな効果があるのか話し合う。 <p><反復した場合> ◇より強調される。</p> <p><同時に重ねた場合> ◇にぎやかな感じがする。 ◇盛り上がるが、一人ひとりのリズムは聴き取りにくい。</p> <p><追いかけるように重ねた場合> ◇少しずつ盛り上がってくる。 ◇加わってきた個々のリズムが伝わりやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復、重ね方の工夫の仕方について、やり方を確認する。 ・グループごとに構成（反復）、テクスチャを工夫して音楽をつくる。 <p>◇「徐々に雪がひらひら舞ってきた感じを表すように手のひらを柔らかく擦り、同時に重ねるところから始めよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめたものを提示しながら、前時に学習したことを想起させ、実際に音に出しながら確認する。 ・ホワイトボードに表示する。 ・指導者のつくった作品『春』の反復、重ねた（同時に重ねる、追いかけるように重ねる）色分けした作品をホワイトボードに掲示し、考えやすくする。 ・既習曲『朝の風に』を例示し、旋律の重なり方による効果を想起させる。 ・グループ用ワークシート、付箋の使い方について例示し、効率よく活動できるようにする。 ・個々にイメージしたことを、どのように組み合わせると効果的になるのかを考えるように伝える。 ・各グループを廻りながら、活動の様子を確かめて、必要に応じて、反復や重ね方についてホワイトボードの掲示物や板書を使いながら助言する。 	<p>イ② 発言の内容 活動の様子 の観察 ワークシ</p>

ま と め	<p>◇「クリスマスの日がだんだん近づいてくる感じを出すために鈴の音をイメージした〇〇さんのリズムを反復させよう」</p> <p>◇「クリスマスが近づくとところをはじめに演奏して、そこに雪がひらひら舞ってきたところを追いかけるように重ねてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージとかかわらせ、前後のつながりを考えながら反復、重ね方を取り入れて、音楽表現を工夫しているグループの発表を聞くことで、音楽づくりの参考にする。 ・構成（反復）やテクスチュアを工夫することによって、どのようなクリスマスの音楽に感じたのかをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの思いや意図を聞き、そのことが音楽づくりに生かされるように助言することで、音楽表現をさらに追求させる。 ・発表したグループの表現意図が伝わるよう板書で確認をする。 ・活動の中で工夫したことを伝え、次時への意欲につなげる。 ・今回は、イメージが伝わるように発表することを伝える。 	トの記述
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------

(3) 本時の評価

イ②【音楽表現の創意工夫】

反復やテクスチュアを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫している。

生徒の姿 評価の観点	十分満足できると 判断される生徒の姿と具体例	おおむね満足できると 判断される生徒の姿の具体例	努力を要すると判断される 生徒の姿の具体例と支援
音楽表現 の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージとかかわらせてつくったリズムを反復させて、前後のつながりを考えながら音楽表現を工夫している。 ・イメージとかかわらせてつくったリズムを様々な重ね方（同時に重ねる、追いかけるように重ねるなど）を工夫して、前後のつながりを考えながら音楽表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージとかかわらせてつくったリズムを反復させながら音楽表現を工夫している。 ・イメージとかかわらせてつくったリズムを様々な重ね方（同時に重ねる、追いかけるように重ねるなど）を工夫しながら音楽表現を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成（反復）や重ね方をどのように取り入れたらいいかわからない。 →例示した方法を一緒に再確認する。 →生徒の作品を使い、構成（反復）や重ね方の取り入れ方を選択できるように、例示する。 →グループの一人ひとりのクリスマスのイメージを確認し、具体例を示して助言する。 →反復や重ね方による演奏の違いが、どのような感じになるのか、例示を想起させながら確認し、選択できるようにする。

9 研究協議の視点

反復やテクスチュアを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫するための教師の支援は適切であったか。

リズム表現を楽しもう！

No. 1

1年（ 組）（ 番）（ ）

1：手拍子

- (1)グループ全員合わせたとき、8分音符♪が全て鳴っている。
- (2)一人ひとりが規則的なリズムを反復する。
- (3)一人ひとりが違うリズムを担当する。
- (4)8分音符、8分休符だけを使う。

	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
1															
2															
3															
4															
5															

音の出し方	音色の違いによって、どんな感じがしたか。
-------	----------------------

1年(組)(番)()

- (1)グループ全員合わせたとき、8分音符♪が全て鳴っている。→鳴らないところがあってもOK。
 (2)一人ひとりが規則的なリズムを反復する。→不規則でもOK。
 (3)一人ひとりが違うリズムを担当する。→同じところがあってもOK。
 (4)8分音符、8分休符だけを使う。→他の音符、休符もOK。

- ①指 ②手 ③肩 ④腹 ⑤腰 ⑥尻 ⑦ひざ ⑧足 ⑨その他 ⑩その他
 ⑪たたく ⑫こする ⑬ウェーブ ⑭組み合わせ ⑮その他 ⑯その他

春 (①何が?②どんなふうに?③どうなった?)

	○				○				
	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
1 桜 ゆしづつ咲く	手				○	○	○	○	○
2 風 ゆめか→強風	ひざ・ウェーブ								
3 遊ぶ小鳥 1羽→増	指	○	○	○	○	○	○	○	○
4 雷 光→ゴロゴロ	足								
5									

クリスマス (①何が_____・②どんなふうに_____・③どうなった_____)

1									
2									

- A：音色をいろいろ試しながら、よりよい作品になるよう、工夫しながらリズムをつくった。
 B：音色をいくつか試しながら、リズムをつくった。
 C：音色を試さず、リズムをつくった。

クリスマスをイメージしたリズムづくりと、それを表すボディパーカッションの音色について、気づいたこと、感じたことを記入しよう。

反復 重ね方を工夫して、クリスマスの様子をイメージした音楽をつくろう。

No.3

1年(組)(番)()

春								
1								
2	風 ゆみが→強風	ひざ:ウエーブ						追いかけるよ えに重ねる ↓
3								
4								
1	桜 おしず→味く	手						
2	風							
3								
4	風							2の反復
1	桜							
2	風							違うパートを 同時に重ねる
3	遊泳の鳥 羽→増	指						
4	風							
1	雷	雷						
2	雷	雷						同じパートを 同時に重ねる
3	雷	雷						
4	光 雷 Jaja	雷						
1	桜							
2	風							
3	小鳥							
4								
1	桜							いめくぐ
2	風							
3	風							
4	風							

A: 反復や重ね方について、イメージや友だちの作品のことも考えながら、具体的に提案した。

B: 反復や重ね方について、自分の作品をどのように取り入れたらいいか、考えを伝えた。

C: 反復や重ね方について、あまり自分の考えが伝えられなかった。

・反復 重ね方 (追いかけるように・同時に) を工夫することによって、どのようなクリスマスの音楽に感じたのか、活動を振り返って記入しよう。

反復 重ね方を工夫して、クリスマスの様子をイメージした音楽をつくろう。

No.4

1年(組)(番)()

春 (①何が?②どんなふうに?③どうなった?)

	○				○			
	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪
1	桜 少しずつ咲く	手	○	○	○	○	○	○
2	風 ゆきか→強風	ひざ	ウェーブ	○	○	○	○	○
3	遊ぶ川 1羽→増	指	○	○	○	○	○	○
4	雷 光→ゴロゴロ	手	///	///	///	///	///	///
5								

クリスマス (①何が_____・②どんなふうに_____・③どうなった_____)

自分のリズムを
音符で書こう♪

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

- ①指 ②手 ③肩 ④腹 ⑤腰 ⑥尻 ⑦ひざ ⑧足 ⑨その他 _____ ⑩その他 _____
- ⑪たたく ⑫こする ⑬ウェーブ ⑭組み合わせ ⑮その他 _____ ⑯その他 _____

クリスマスをイメージしたリズムづくりと、それを表すボディパーカッションの音色について、反復 重ね方を工夫することによって、どのようなクリスマスの音楽に感じたのか、活動を振り返って記入しよう。